



東京海洋大学客員准教授

Interview  
Sakana kun

あの人の「魅力」に迫る

# さかなクン

魚に関する知識なら、さかなクンの右に出るものはいないだろう。優れた観察力で描く魚のイラストも、知る人ぞ知る腕前だ。「ギョギョー」のセリフで子供にも大人にも大人気のさかなクンに魚に興味を持つようになったきっかけや魚の世界などについてお話しいただいた。

## 魚が好きになる前は タコに一筋

小2の時、友達が描いた迫力あるタコの絵を見てギョギョーとビックリ!!「こんな生き物が本当にいるの?」と一気に興味が湧きました。図書室へ行き、タコについて調べ、家に帰ってからは「タコが食べたーへ。丸ごとのゆでダコを買って帰りました。いろんな角度から眺め、吸盤を数えたり、絵を描いたり、本で調べたり。そして、美味しくいただいて、翌日また買いに行く。そんなタコ生活が1か月は続きましたね(笑)。

そのうち、「元気なタコを見てみたい!」と思うようになり、夏休みには、千葉県の大浜にある親戚の家に連泊し、毎日タコを探しました。タコは見つからなくても、カニやイソギンチャク、アメフラシなど多くの海の生き物に出会えて、とても楽しい毎日でした。そんなある日、岩影に、黄色に輝くマダコを目を見つけたんです。興奮して、服を着たまま海に入り、素手でタコを捕まえました。吸いついてくる吸盤と格闘し

## 好きこそ物の上手なれ 大好きなお魚たちが 自分に「生きる力」をくれる



魚に関する知識のみならず、魚のイラストでも人々を楽しませる

## 先生と友人に認められた喜びが 人を喜ばせる原動力に

小6の時、週末に『自分で調べたことをノートにまとめてくる』という宿題がありました。

自分も水族館やお魚屋さんに行き、観察したり質問したり、もちろん図書館でもいろいろ調べて、それらを絵と文章にして提出しました。すると、担任の先生が「絵も文章も面白いから、壁新聞にしよう!」

と言って、廊下に

貼ってくださったんです。先生に認められただけでも嬉しかったのですが、休み時間に壁新聞を読んでもくれている友達の姿を見て、嬉しさが倍増しました。それまでは、お魚の絵をただ夢中に描いていたのですが、そ

## 夢中になれるものは 「生きる力」になる

夢中になれるものは、喜びに直結していると思います。「生きる力」

にもなります!だから、夢中になれるものを、自ら広げようとしている子に、大人が「勉強だけに集中しなさい」とか「そんなものはやめてしまいなさい」と言うのは、かわいそうですし、もったいないと思います。「この子に『生きる力』をくれるものなんだ!」と応援していただきたいでギョーございます。

さかなクンが夢中になれるものは

ながらも、大喜びしたことを今でも鮮明に覚えています。

その後もタコ一筋でしたが、ある日、母が、いろんな種類のお魚の写真がのっている下敷きを買ってくれたんです。それを見た時に、「タコ以外にも、海にはいろいろなお魚がいるんだなあ」と思うようになり、お魚にもワクワクし始め、どんどん興味広がっていきました。



お魚です。お魚との出会いも喜びですが、お魚を通して様々な人たちと出会うことができることも大きな喜びです。漁師さん、水族館の皆さま、市場の皆さまはもちろん、様々なお仕事をする皆さまと出会い、お話をさせていただくと、世界がより広がるし、より深くなります。夢中になれるものを持っていると、仲間ができて、輪が広がっていくんですね。こうして、宝物がどんどん増えて大きくなっていきます！

### どんな人間も 大自然の前では平等

お魚を観察していると、いろんなことに気づきます。メジナというお魚は、広い海の中では、仲良さそうに群れを成しています。みんな同じように行動して、群れそのものを大きな生き物に見せ、敵の大きなお魚などに食べられないように力を合わせています。そんなメジナを数匹、水槽で飼ってみると、1匹のメジナがある1匹のメジナをいじめ始めました。そこで、いじめられている1匹を別の水槽に移しました。でも、またすぐに別の1匹のメジナがいじめられます。いじめられているのが同じ

メジナだったので、今度はいじめているメジナを別の水槽に移しました。すると、今度は別の1匹がいじめを始めるんです!! 「どうしてこんなことが起きるんだろう?」と考えた結果、「急に狭い環境になったからかな?」と思いました。広い海では、縄張りなんて作る必要がありません。でもそれが狭い場所になると、縄張りを作る。そして、いじめが起きてしまう。そんなメジナたちを見ていたら、「あれ?人の世界と似ている

な」と思っただけです。だから、人も時々、川や海、山や森などの大自然の中に出てみる必要があると思います。いい空気を吸って、素晴らしい眺めを見るだけで心が健やかになれます!



### profile

**さかなクン**  
東京都出身、千葉県館山市在住。魚に関する豊富な知識は、その生態のみならず、調理法にまで至る。NHK「ゆうどきネットワーク」、TBSラジオ「大沢悠里のゆうゆうワイド」にコーナーをもつ。その他、新聞、イベント、雑誌など、各種メディアで活躍。『おしえて!さかなクン1~3』(エンターブレイン)など著書も多数。

### 頭にハコフグのわけ

小学生の頃、福島県に遊びに行ったとき、あるお魚屋さんの水槽を眺めていたら、不器用な感じで泳ぐ、四角い体のお魚を見て感激!! つぶらな瞳と、おちよぽ口が本当に可愛くて、一目ぼれしたのがハコフグでした。そのハコフグは10cmほどの大きさでしたが、大きな魚にドンとぶつかっても、へこたれずにひれをパタパタさせてちゃんと泳ぎ続けるんです。その一生懸命な姿を見て心がジーンと感動しました。そして、自分も「何か壁にぶつかっても、ハコフグみたいに元気に頑張ろう!」と思いました。それで、勇気をくれたハコフグを常に頭にのせるようになりました。ちなみに、背中が青いハコフグは恋するおすのハコフグでギョーザいいます。「いつでもお魚に恋しています」という意味もあるんです(笑)。

ところで、フグといえば冬のお魚。「東のアンコウ、西のフグ」という言葉もあります。冬は、他にも旬をむかえるお魚がいっぱい!! 師走の頃から美味しくなるから漢字でお魚に師と書いて「鰻」(ブリ)。寿司ダネではヒラメも美味しいですね。コハダとして馴染みのコノシロも「鮎」と書くように冬が旬のお魚でギョーザいいます!



大小様々な水槽にいろいろな魚を飼っているさかなクン